

今号の内容

- 「学びの広場」をつなぐ
- みどころ紹介・古民家シリーズ⑤「竈(かまど)」
- 年末恒例「ミニ正月飾り作り」
- 航空写真に見る爆撃の痕跡
- 春のイベント予定

「学びの広場」をつなぐ

市民学芸員 和田 雅子



昨年、12月12日、年末恒例の^{すす}煤払いが行われました。当日参加したのは、難波田城資料館を利用している15団体42名の皆さんです。

旧大澤家住宅や旧金子家住宅などの大掃除をし、終了後にはけんちん汁などを食べながら利用者同士の交流を図っています。

難波田城公園・資料館は平成12年(2000年)に開館し、25年が経ちました。

5年前に『開館20周年記念誌 学びの広場 難波田城—地域・市民とともに20年—』が発行されました。この記念誌は、開館に至るまでの経緯、施設概要、施設管理、資料保存、普及事業のほか、資料館友の会、市民学芸員、難波田城公園活用推進協議会などの利用団体の活動も記録されており、20年間の歩みのすべてがぎゅーっと詰まった内容になっています。難波田城資料館のこれまでの歩みを知ることができる資料だと思います。

また編集の段階から利用団体の皆さんも関わったということで、当時の皆さんの熱い思いが伝わってくるようです。

そのころ、この歩みを止めるような社会生活を一変させる出来事がありました。新型コロナウイルス感染症の^{まんまん}蔓延です。資料館をはじめ、市内の公共施設は休館やイベント・事業の中止を余儀なくされました。

このような状況が続く中で、市内では、後継者不足も相まって活動を終了した団体もあるという話を聞きました。

市民学芸員は、私も含めコロナ禍以降に活動を始めた方がいる一方で、開館当初から活動を続けてきた方々の中には、残念ですが引退する方もいます。寂しさと同時に危機感もあります。これまでの活動の中で積み重ねてきた知識や経験が途切れてしまうのではないかと。何かを始めることは大変です。そして、それを続けていくことはさらに大変なことです。四半世紀にわたりこれまで活動を続けられてきたのは、市民学芸員としての自負ややりがいなど多くの理由があると思います。これからもそれらを引き継ぎ、さらに充実した活動としていくことが、私たちの役割のひとつだと思っています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちょっと拝見 みどころ紹介

古民家シリーズ⑤「竈(かまど)」

「かまど」の歴史は古く、米を蒸して食べるようになった古墳時代の遺跡からも出土しています。

土間に土や石、煉瓦^{れんが}等で作られ、防火の願いも込め、近くに「荒神様」を祀ることが多くありました。燃料は薪・炭・わらなどを用いていました。

園内2棟の古民家にはそれぞれ、大型のものと焚き口2つのものが据えられています。日常的に使われていたのは焚き口2つのものです。

いぎ煮炊きとなると、燃料と煮炊きするものに応じて、常に火加減に気を付け、調整が必要です。そして時間とともに炊き上がる米や鍋の汁物や煮物、それに少々の煙の匂いが土間に満ちて、食事の支度が整っていくのでした。

旧金子家住宅の焚き口2つのかまどは現役で、年に何度か行事の折に活躍してもらっています。昨秋、このかまどでは新米を炊き、その味と香り、なつかしさを堪能させていただきました。(飯野 ミネ子)



旧金子家住宅かまど(上)・旧大澤家住宅かまど(下)

おもしろ・なつかし体験 [84]

年末恒例
ミニ正月飾り作り

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

難波田城資料館では、昔からの行事を体感してもらうためにすす払い、餅つきなど様々なイベントを実施しています。

今回紹介するのは正月の伝統行事のしめ飾りを作る、ちよこつと体験「ミニ正月飾り作り」です。

普段の縄ないなどの体験では、園内の田んぼでとれたわらを使いますが、この体験では、稲穂が出る前に青刈りして、納屋などに干して日に当てず、緑色のまま保管していたものをご近所の農家さんの協力を得て使っています。

またこの時使う縄は普段の縄のよりとは逆の左縄です。そして飾りを付ける太さにするため、三本の縄をより合わせて作ります。ここは難しいので、事前に準備しておきます。

輪飾りを作るときの結び目を上にするという風習もあれば、地域によってはその逆もあります。また輪にはしないゴボウじめもあり、その形は様々です。

本来はダイダイ、松、ユズリハ、ウラジロ等で飾っていきませんが、体験では縄のサイズに合う、ナンテンの実、松葉、稲穂、キンカンの実などを使っています。

参加者の皆さんは、それぞれのセンスでキレイに飾りあげていきます。そして世界で一つ、自分だけの作品が完成。そのときの嬉しそうな顔を見ると、こちらも嬉しくなります。

毎年年末の人気がある体験です。数に限りがあるので、当日はお早めの参加をオススメします。

(村田 幸二)



人の創ったもの★人の使ったもの

航空写真に見る爆撃の痕跡

3月14日(土)から6月14日(日)まで、令和8年春季企画展「富士見市に刻まれた戦争 ～戦後80年の記憶～」を開催します(概要は4ページをご覧ください)。昭和20年(1945)4月2日未明、富士見市はアメリカ軍の爆撃機による空襲を受けました。ここでは、その痕跡を写した航空写真を紹介します。

4月2日の空襲 この日の空襲は、東京都武蔵野市にあった中島飛行機武蔵製作所が攻撃目標とされました。1機あたり4個の照明弾と36個の250kg爆弾(500ポンド爆弾)を搭載した115機のB29爆撃機が襲来しました。空襲の目標であった武蔵製作所の損害が少なかった一方、周辺地域に大量の爆弾が投下されて大きな被害が出ました。警視庁が作成した「空襲災害状況調」(昭和20年4月2日)や陸軍東部軍管区司令部が発行した「民防空速報 第七号」(同年5月5日)によると、現在の東京都練馬区・杉並区・武蔵野市・西東京市・三鷹市・小平市・清瀬市・東久留米市・東大和市・東村山市・武蔵村山市・国立市・多摩市、埼玉県新座市・志木市・所沢市・三芳町など東京の多摩地域から埼玉県南部に及ぶ広い範囲に爆弾が投下されました。

これらの報告書に富士見市域の被害状況は明確には記載されていませんが、市民の証言や鶴瀬国民学校の学校日誌などから、この日の爆弾投下によって少なくとも6名の死者をとまなう被害が確認されて



関沢地区の着弾痕(国土地理院 USA-R741-29 に加筆)

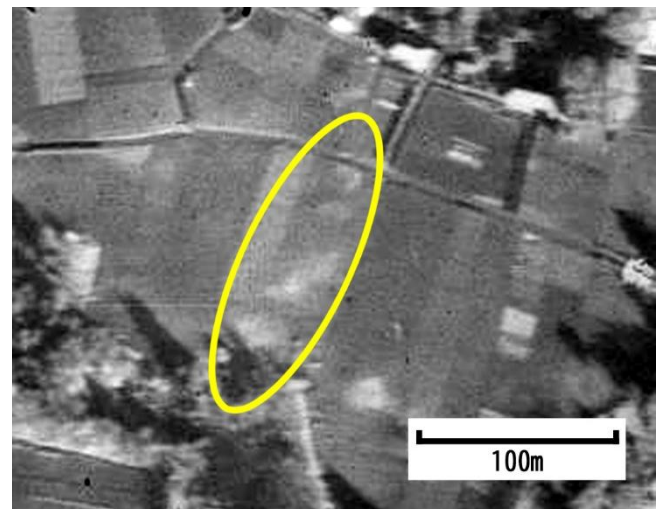
このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介します。今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

います。また、これまでの調査から、B29は関沢地区から侵入し鶴馬地区を経由して上南畑地区に向かうルート、針ヶ谷地区から水子地区を経由して下南畑地区に向かうルートという二つのルートを取り、爆弾を投下していったと考えられています。

大地に刻まれた爆撃の痕跡 B29から投下された爆弾の衝撃は凄まじく、地面に深く大きな穴があり、台地上では耕作土の下にある関東ローム層(赤土)が地上に現れました。多い時には、10発以上の爆弾が連続して投下されました。そのため、終戦後まもなく撮影された航空写真には、点々と続く着弾痕が白っぽく写っています。

昭和22年12月29日にアメリカ軍が撮影した航空写真には、B29が富士見市内に侵入したと考えられる関沢地区(左写真)と針ヶ谷地区(右写真)に着弾痕が確認できます。その痕跡は発掘調査からも確認されています。南^{みなみどおり}通遺跡第11地点では径16m、地下2mに及ぶ大規模な爆発痕が見つかりました。南通遺跡第31地点では確認可能な範囲で長軸6m以上、短軸5.7m以上、深さ1.4m以上の爆発痕がありました。また、250kg爆弾の破片も出土しました。

地表に現れている痕跡は時間とともに耕作や開発などによって姿を消していきました。しかし、発掘調査の結果にもあるように、痕跡は地中に今もなお残されているのです。(山野健一)



針ヶ谷地区の着弾痕(国土地理院 USA-R741-64 に加筆)

＊＊春のイベント予定＊＊

各イベントの詳細は、広報ふじみ、公式サイトなどでお確かめください。

●春季企画展

『富士見市に刻まれた戦争 ～戦後80年の記憶～』

市内の大地や石造物、行政文書、人々の記憶などに刻まれたさまざまな資料から日中戦争やアジア・太平洋戦争を振り返ります。

とき／3月14日(土)～6月14日(日)

企画展関連講演会

「日本軍兵士の現実 ～大量死の歴史的背景～」

アジア・太平洋戦争で多数の兵士が亡くなった背景について、解説していただきます。

とき／3月21日(土) 午後1時30分～3時

定員／30名(無料、申込順)

講師／吉田 裕^{ゆたか}氏(東京大空襲・戦災資料センター館長)

申込／3月1日(日)から電話で

市民の戦争体験を聞く会

「戦時中に子どもだった私の思い出」

当時の学校や地域の様子について、ご自身が描いたイラストを交えながらお話ししていただきます。

とき／4月29日(祝) 午後1時30分～2時30分

定員／30名(無料、申込順)

講師／萩原 弘氏(1934年生まれ)

申込／4月2日(木)から電話で

●ふるさと探訪

ひきまた 引又の文化財をめぐる

とき／4月25日(土)午前8時50分～12時

集合／東武東上線 柳瀬川駅東口

※小雨決行

主な見学地／長勝院、柏の城跡、^{ぎょうぎ}行屋稲荷、旧村山快哉堂、^{たごやま}田子山富士塚など

定員／20名(申込順)

持ち物／飲み物、雨具

参加費／500円(保険料等、当日集金・バス代別)

申込／4月2日(木)から23日(木)までに電話で

主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●田んぼ体験隊(全7回)

種まきからもちつきまで年間を通して活動します。定員／15組(1組4名以内、申込順。申込多数の場合は初参加者優先)

対象／市内在住者を含む家族又は友人のグループ

参加費／1組1000円(年間。材料費・通信費等)

申込／4月4日(土)から電話で

農業指導／柳下春良氏(地元農家)

日程／

回	内容	日付	時間
1	種まき・田うない	5/16(土)	14～16時
2	田植え	6/20(土)	14～16時
3	草取り	7/4(土)	10～12時
		7/11(土)	
4	かかしづくり	7/25(土)	10～12時
		8/1(土)	
5	稲刈り	10/17(土)	14～16時
		予備日 10/24(土)	
6	脱穀	10/31(土)	14～16時
7	もちつき、わら細工	12/19(土)	10～12時

●難波田城公園まつり

とき／6月7日(日) 午前10時～午後3時

●武者行列参加者募集

難波田城公園まつりの武者行列に参加しませんか?

本物の甲冑^{かっちゅう}を着用します。

とき／6月7日(日) 午前11時～午後3時

定員／3名(市内在住、在学。申込順)

(身長150～180cm、ウエスト100cm以内)

申込／4月1日(水)から5月17日(日)までに電話で

●ちよつ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

3月22日(日) 草もち

4月26日(日) かしわ餅

午前11時より 売り切れ次第終了

1パック400円

田舎まんじゅう販売
第1.3日曜日 10:30～

〈開園時間変更のお知らせ〉

4月から9月の間、公園の開閉時間は午後6時になります。資料館と古民家は午後5時までです。



富士見市立難波田城資料館

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665

〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時

◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)



資料館公式サイト